

(第1面)

産業廃棄物処理計画書

令和 4年 6月 15日

鹿児島市長 下鶴 隆央 殿



提出者

住 所 鹿児島県鹿児島市新栄町4番8号

氏 名 株式会社 荒 川

代表取締役 荒川 直文

(法人にあつては、名称及び代表者の氏名)

電話番号 099-254-4131

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	(株)荒川 セツ島事業所 (株)荒川 RPF 製造工場 (株)荒川 谷山メタルベイ
事業場の所在地	鹿児島市セツ島1丁目2番4号 鹿児島市セツ島1丁目3番24号 鹿児島市セツ島1丁目40番6号
計画期間	令和4年4月1日 から 令和5年3月31日
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
① 事業の種類	大分類：サービス業 中分類：廃棄物処理業 小分類：管理、補助的経済活動を行う事業所
② 事業の規模	前年度の廃棄物処分売上高 439,083,478円
③ 従業員数	129名
④ 産業廃棄物の一連の処理の工程	【 別添 】 ・産業廃棄物 処理工程 (セツ島、RPF、谷山メタルベイ)

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項			
<p>【 別添 】</p> <p>・ 産業廃棄物の処理に係る管理体制</p>			
産業廃棄物の排出の抑制に関する事項			
① 現状	【前年度（3年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	別添 内訳表	
	排 出 量	別添 内訳表【A】	19,247 t
	(これまでに実施した取組) ・ 廃棄物の事前選別により、サーマルリサイクルできるもの、再資源化できるものの回収に力を入れている。 ・ 粒度ふるい機を設置し、30 mm以下の非鉄金属回収が出来るようになったことで、回収増加と埋め立て処分となる金属の抑制へ繋げ再資源化へのリサイクル増進ができた。		
② 計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	別添 内訳表	
	排 出 量	別添 内訳表【B】	20,020 t
	(今後実施する予定の取組) ・ 廃棄物の事前選別により、サーマルリサイクルできるモノとマテリアルリサイクルできるモノに分別し、リサイクル推進をしていく。 ・ 取扱量増加にも徹底した分別・選別及び焼却リサイクル化を行い、埋め立て処分量の減量へ努めていく。		
産業廃棄物の分別に関する事項			
① 現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 金属くず：手選別による非鉄金属分別と、磁選機による鉄類の分別を行っている。		
② 計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 廃プラスチック類：サーマルリサイクルできるものとマテリアルリサイクルできるものに大別。さらに細分化しリサイクルの促進と有価物の増加を図る。		

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項

① 現状	【前年度（3年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	別添 内訳表	
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	別添 内訳表【C】	0 t
	(これまでに実施した取組)		
② 計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	別添 内訳表	
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	別添 内訳表【D】	0 t
	(今後実施する予定の取組)		

自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項

① 現状	【前年度（3年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	別添 内訳表	
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	別添 内訳表【E】	0 t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	別添 内訳表【F】	7, 236 t
	(これまでに実施した取組) ・ 廃棄物の事前選別により、サーマルリサイクルできるもの、再資源化できるものの回収に力を入れている。 ・ 粒度ふるい機を設置し、30 mm以下の非鉄金属回収が出来るようになったことで、回収増加と埋め立て処分となる金属の抑制へ繋げ再資源化へのリサイクル増進ができた。		
② 計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	別添 内訳表	
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	別添 内訳表【G】	0 t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	別添 内訳表【H】	5, 530 t
	(今後実施する予定の取組) ・ 廃棄物の事前選別により、サーマルリサイクルできるモノとマテリアルリサイクルできるモノに分別し、リサイクル推進をしていく。 ・ 取扱量増加にも徹底した分別・選別及び焼却リサイクル化を行い、埋め立て処分量の減量へ努めていく。		

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項			
① 現状	【前年度（3年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	別添 内訳表	
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	別添 内訳表【I】	0 t
	(これまでに実施した取組)		
② 計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	別添 内訳表	
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	別添 内訳表【J】	0 t
	(今後実施する予定の取組)		
産業廃棄物の処理の委託に関する事項			
① 現状	【前年度（3年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	別添 内訳表	
	全処理委託量	別添 内訳表【K】	10,029 t
	優良認定処理業者への処理委託量	別添 内訳表【L】	146 t
	再生利用業者への処理委託量	別添 内訳表【M】	0 t
	認定熱回収業者への処理委託量	別添 内訳表【N】	0 t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	別添 内訳表【O】	101 t
	(これまでに実施した取組)		
<ul style="list-style-type: none"> ・シュレッダーダストにより発生した廃棄物は、そのまま管理型埋立にするのではなく安定型埋立が可能なもの、固形燃料化できるものにと選別している。 ・産廃処理施設工場（谷山メタルベイ）が増え破碎・選別機を導入。回収物の種類を増やし、より多くの有価物を回収できるようになった。 			

② 計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	別添 内訳表	
	全処理委託量	別添 内訳表【P】	14,490 t
	優良認定処理業者への 処理委託量	別添 内訳表【Q】	150 t
	再生利用業者への 処理委託量	別添 内訳表【R】	0 t
	認定熱回収業者への 処理委託量	別添 内訳表【S】	0 t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	別添 内訳表【T】	100 t
	(今後実施する予定の取組) ・シュレッダーダストに含まれる有価物をできる限り 多く回収し、安定運用・品質向上に努める。 ・可能な限り、優良認定処理業者へ処理を委託する。		
※事務処理欄			

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3)④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「—」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

産業廃棄物(特別管理産業廃棄物)処理計画書 廃棄物の種類が複数ある場合この表を使用してください

別添内訳書

(お願い:2種類までは計画書に記載することができますが、集計の都合上、なるべくこの表に記載してください)

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項											数字(t)		
	廃プラスチック類	紙くず	木くず	繊維くず	金属くず	ガラス(※)	ゴムくず	混合廃棄物	管理型混廃	汚泥	廃油	廃酸	合計
①現状(3年度実績)	排出量【A】	13,361.724	106,561	1,454,984	372,997	2,327,835	1,523,841	33,000	0.878	22,790	15,975	6,853	19,247
	排出量【B】	14,000	100	1,500	350	2,500	1,500	20		20	20	10	20,020
自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項													
①現状(3年度実績)	自ら再生利用を行った量【C】												0
	自ら再生利用を行う量【D】												0
自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項													
①現状(3年度実績)	自ら熱回収を行った量【E】												0
	自ら中間処理により減量する量【F】	4,379,978	75,477	150,098	272,035	2,325,629	0,000	33,000	0.000				7,236
②計画(4年度目標)	自ら熱回収を行った量【G】												0
	自ら中間処理により減量する量【H】	5,000	80	150	300	0	0	0	0				5,530
自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投棄処分に関する事項													
①現状(3年度実績)	自ら埋立処分を行った量【I】												0
	自ら埋立処分を行う量【J】												0
産業廃棄物の処理の委託に関する事項													
①現状(3年度実績)	全処理委託量【K】	7,897,022	17,549	580,381	67,799	1,103	1,401,419	0,000	0.878	22,790	15,975	6,853	10,029
	優良認定処理業者へ処理を委託した量【L】	50,320			50,250					22,790	15,975	6,853	146
内訳	再生処理業者へ処理を委託した量【M】												0
	認定熱回収業者へ処理を委託した量【N】												0
	認定以外の熱回収業者へ処理を委託した量【O】	50,320			50,250								101
②計画(4年度目標)	全処理委託量【P】	9,000	20	1,350	50	2,500	1,500	20	0	20	20	10	14,490
	内訳	優良認定処理業者へ処理を委託する量【Q】	50			50					20	10	150
内訳	再生利用業者へ委託する量【R】												0
内訳	認定熱回収業者へ処理を委託する量【S】												0
内訳	認定以外の熱回収業者へ処理を委託した量【T】	50			50								100

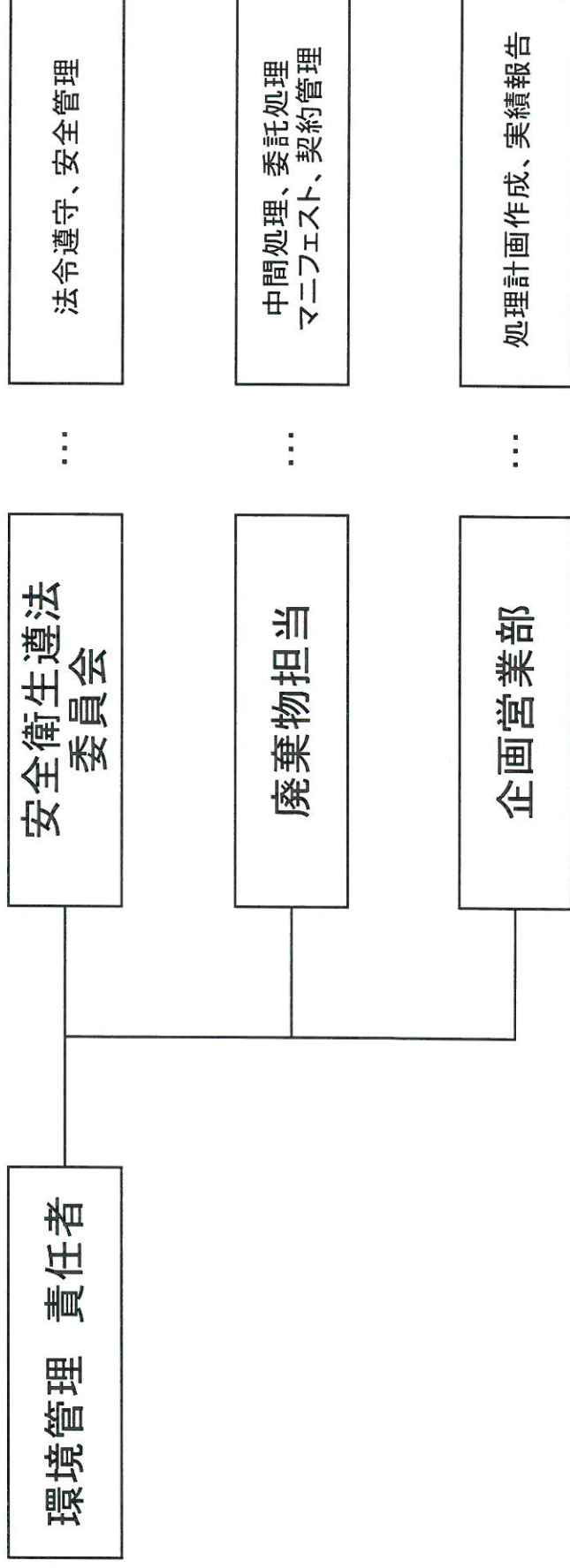
※ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず(磨石膏ボードもガラスくずとして記入してください)

※建設系の廃棄物で、品目ごとの仕分けが不可能な場合は、建設混合廃棄物として記入してください。

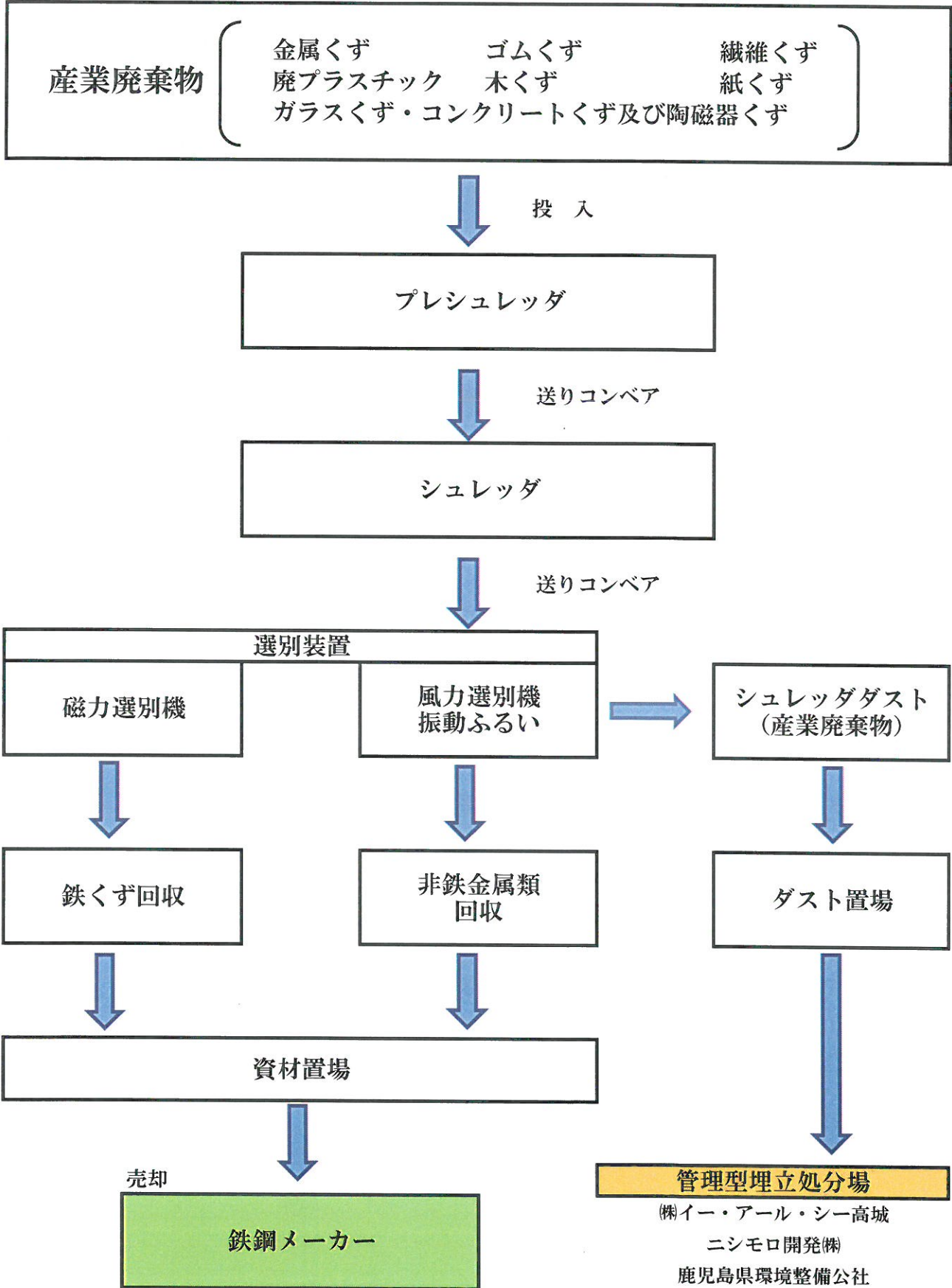
株式会社 荒川

七ツ島事業所 ・ RPF製造工場 ・ 谷山メタルベイ

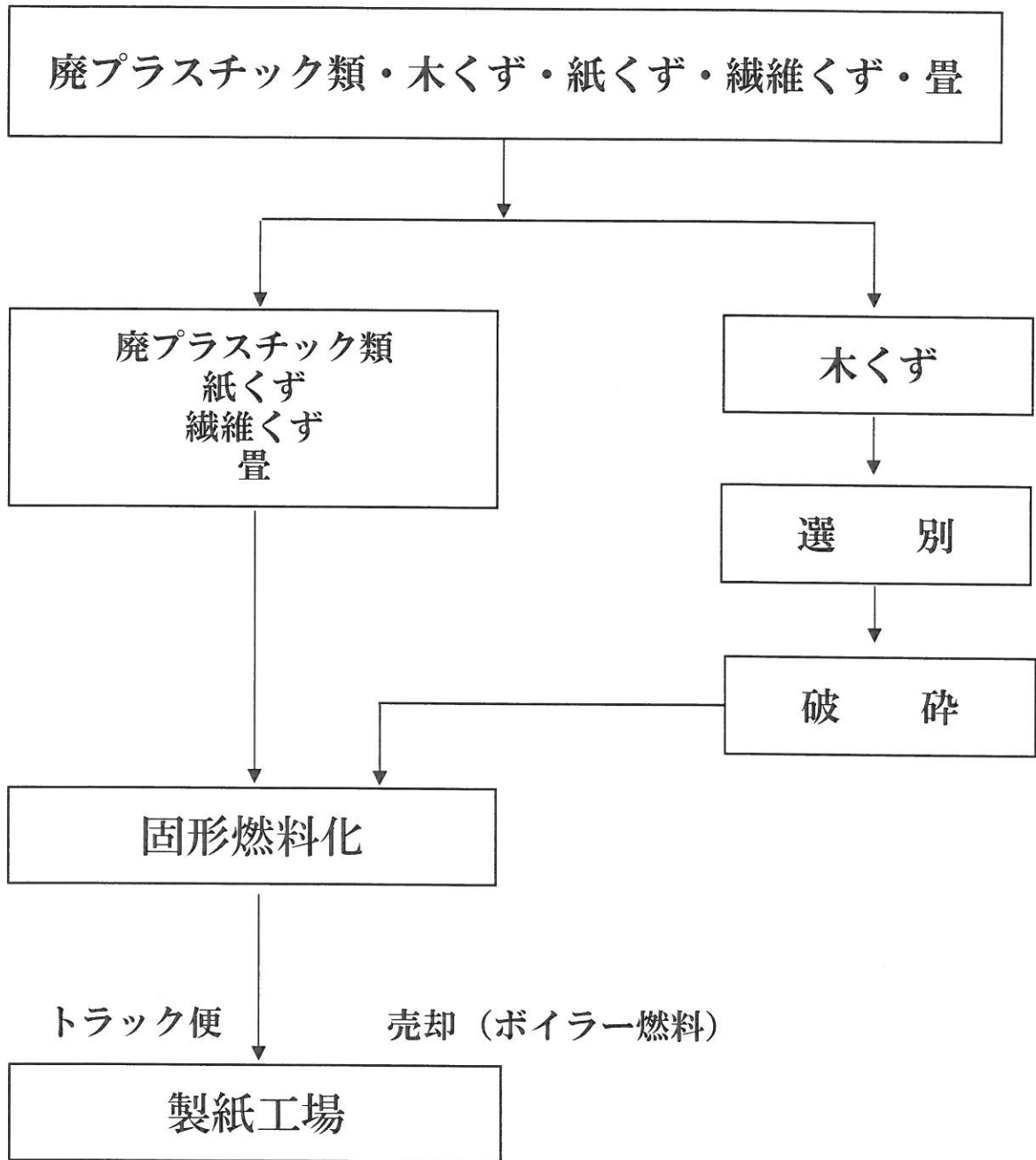
産業廃棄物の処理に係る管理体制



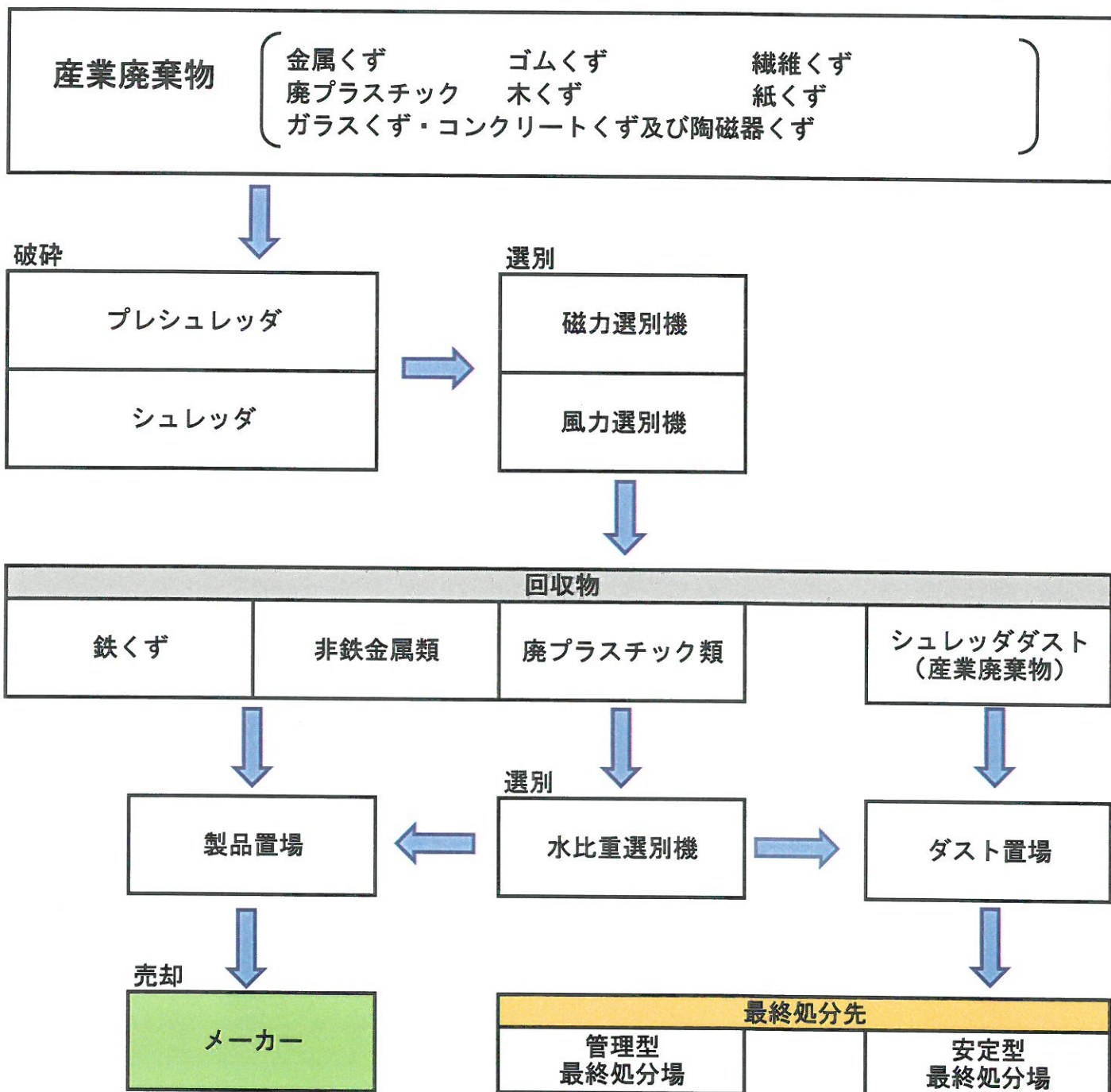
産業廃棄物処理施設 処理工程図



産業廃棄物処理施設 処理工程図



産業廃棄物処理施設 処理工程図



※廃プラスチック類のみ

(株)イー・アール・シー高城
ニシモロ開発(株)
鹿児島県環境整備公社